

『甲状腺の病気』

甲

甲状腺は主にホルモンの分泌を行っている内分泌器官です。ここから分泌される甲状腺ホルモンは、新陳代謝に大きく関わっていますので、甲状腺に異常が起きると全身の臓器に影響を及ぼします。代表的な病気として、甲状腺ホルモンが過剰に分泌されてしまう甲状腺機能亢進症(バセドウ病など)と、分泌が低下する甲状腺機能低下症(橋本病など)などがあります。

まず、バセドウ病に代表される機能亢進の状態では、新陳代謝が過剰になりますので、動悸や息切れ、微熱の持続、異常発汗、イライラや不眠などという症状が見られます。逆に機能低下症になると、新陳代謝が下がるため、活動性が落ち、常に疲れている、ダルイ、いつも調子が悪いといった状態になってしまいます。

では、それらの病気の原因は何かと申しますと、免疫機能の異常からくる自己免疫疾患なのです。自己免疫疾患とは、免疫機能の異常から、自分の体を異物と誤って攻撃してしまう病気のことです。バセドウ病や橋本病も甲状腺を異物と認識してしまい、自らを攻撃してしまうために起こる病気です。

西洋医学では、軽度であればホルモン剤の服用が中心となりますが、甲状腺自体の腫れが大きい場合やホルモンの分泌異常が大きい場合には、外科的に取り除く場合もあります。

我々の考えでは、やはり免疫の異常ですので、免疫系に異常を来しやすい動物性脂肪や乳製品、白砂糖などの摂取を減らすことが大切です。東洋医学的に観ても、免疫を司るのは胃と脾臓の経絡と言われていいますので、やはり胃腸や消化器の働きを正常に保つことが治癒の鍵といえるでしょう。

また、全身のホルモンのバランスを調節しているのは腎臓(西洋医学的には副腎も含む)です。腎機能を整えるためにも体を冷やしすぎないよう注意が必要です。手当てとして生姜シップや足湯・腰湯、大根干葉湯などが有効です。甲状腺自体に炎症や腫れがあるときには、直接里芋パスタをされると良いでしょう。

精神面から見ると、甲状腺の異常を来しやすい方は、比較的眞面目でストレスを溜め込みやすい方が多いようです。言いたいことが言えずに、咽元で堪えてしまう傾向にある方は、特に注意してください。必要以上に感情を溜め込んでしまうと、やはり体には症状として現われます。周囲への気配りは当然必要ですが、自分を表現できる場を作り、ある程度、自己表現をしていただくことが大切です。

自分自身をしっかり認めて大切にすることが、何かと自分自身を責めてしまいがちな自己免疫疾患の患者様には、一番の癒しと言えるでしょう。